

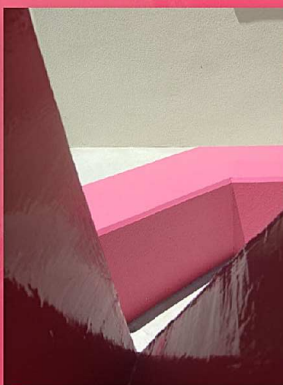
AYN: ARCHITECT

YOSHIAKI NAMIZATO

並里義明建築研究所

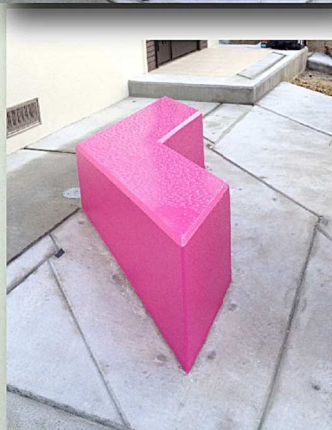
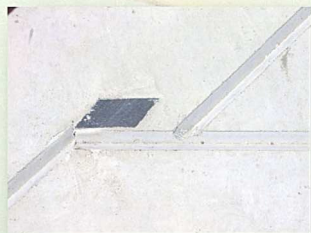
生きる喜びを
与える建築

AYN



色があると 不思議と 元気になれる

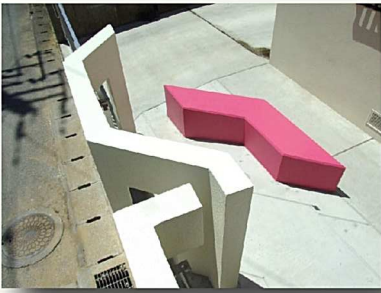
南国には南国の色があります。不思議と熱帯の島国では高彩度が定着している。高彩色の退色を味わい風流を楽しむ。



建築が与える力

細部から全体へバランスの計算された流れるデザイン。

自分のデザインに正直になろう。自由になろう。話題性のある建築は新たな活動を無限に生み出す、そして新しい産業を生み出し、活気にあふれ、人を呼び、文化を育み、地域を潤す。



物理的諸条件から生まれる想像もつかない結果。偶然も必然のものとして流れるように繋げる。

機能面だけ見ればまっすぐの塀にしかないこの部分に強烈なアクセントで切り込む。



塀をひねり、動きを持たせることでいろいろな角度から無数の構成美が生まれる。

芸術とは表現や発想の応用的転換。建築でも同じようなことが行われる。「こうすると面白いのではないか？」
「こうすると今まで見たこともない風景が現れる」

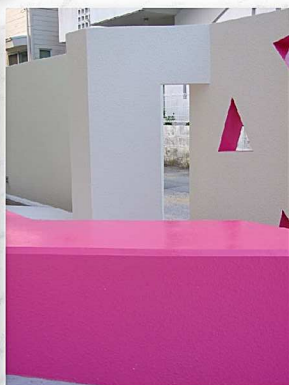


芸術作品に間違われるほどの美しいものを。



構成美

「私が得意な事で人の為に尽くそう」、そう決めた。建物は別の設計者によるものだが私の色を取り込みかつ調和を試みた。



表現者としてこの一角をデザインした。想像もつかない輝きを放ち色々な角度から色々な顔を見せてくれる。11時頃に浮き出る目地の輪郭、1時半頃に影が三角形の小口のマゼンタに掛かる瞬間。影で覆われた時に流れる涼しい風と共に印象を変える。

このベンチは人を集め団らんを生み、会話を生む。完璧に視線を閉ざすのではなく小さな三角穴から歩行者との互いの気配を感じ合う。建物とこのベンチを調和するのにこの三角穴に塗られたマゼンタが効果的だった。建物から塀へ降りたアイボリー、そしてマゼンタを使いベンチへ渡る。

完成時、喜んでくれたのが何よりもうれしいことだった。私のデザインは特異で独りよがりである可能性が十分にある。しかし、多くの方から「素晴らしい」とお褒めの言葉や感謝をいただいた時には涙の出るくらい嬉しい瞬間で、それは同時に自分の残したものが力を持っているか認識する瞬間でもある。

喜び

幾何学

幾何学的図形、パターンは無機質ですが惹き付けるものがあります。昔からその定理の中での永遠性に人は魅せられ、人類の築いた英知を大地に刻んできたのでしょ。

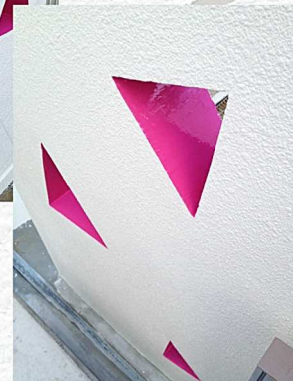
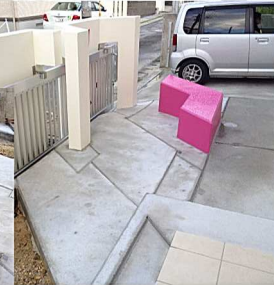
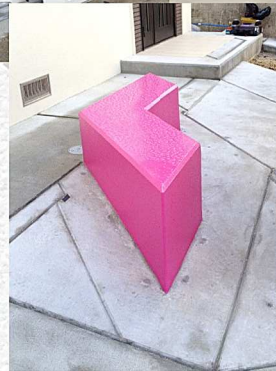
工事中に見え隠れする現場の美、この作品も例外ではありません。デザインを具現化するのに、現場ではよく新しい提案が出て来ます。これはその過程で現れた美しい幾何学模様。力強く堂々とした姿に「このまま残そう」と現場の声。色彩計画を練り直したが建物との調和が保てないとの判断で設計通りの色にする決断を下しました。

ここで大きく載せたのはこのデザイン単体での賞賛があまりにおおきく、このまま人の目に触れないのはもったいないと感じたからです。

Before



After



AYN AYN: ARCHITECT
YOSHIAKI NAMIZATO
並里義明建築研究所

